

1 浦安日の出周辺における試験計画素案

2 猫実川における淡水導入試験計画素案

浦安日の出周辺における試験計画素案

1 試験目的 浦安日の出周辺の階段護岸を利用して、海と陸との連続性の回復を検討するための基礎資料を得る。

2 試験項目

- (1) 潮だまり、干潟拡大による生物の加入状況
- (2) 塩生植物の生育状況

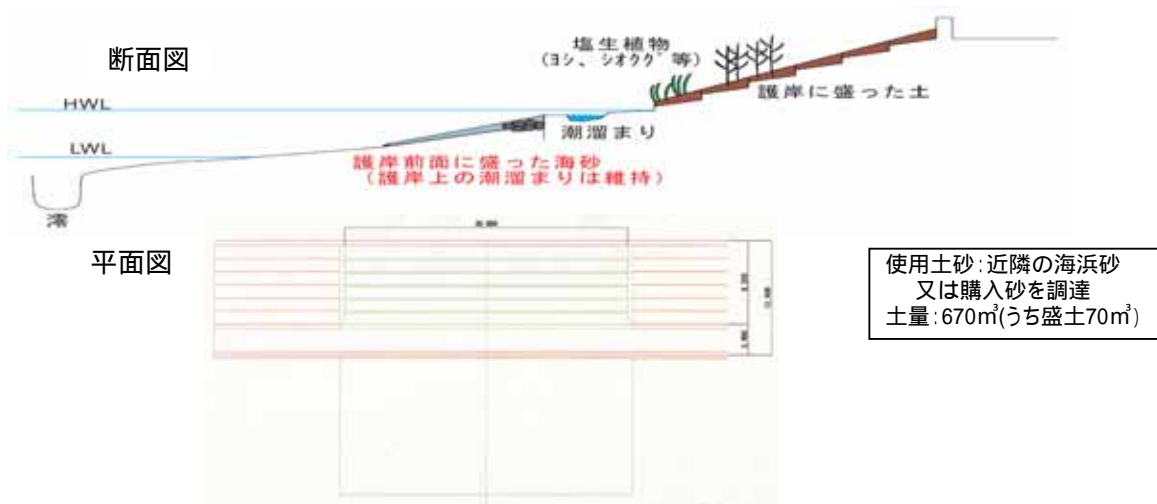
3 試験場所

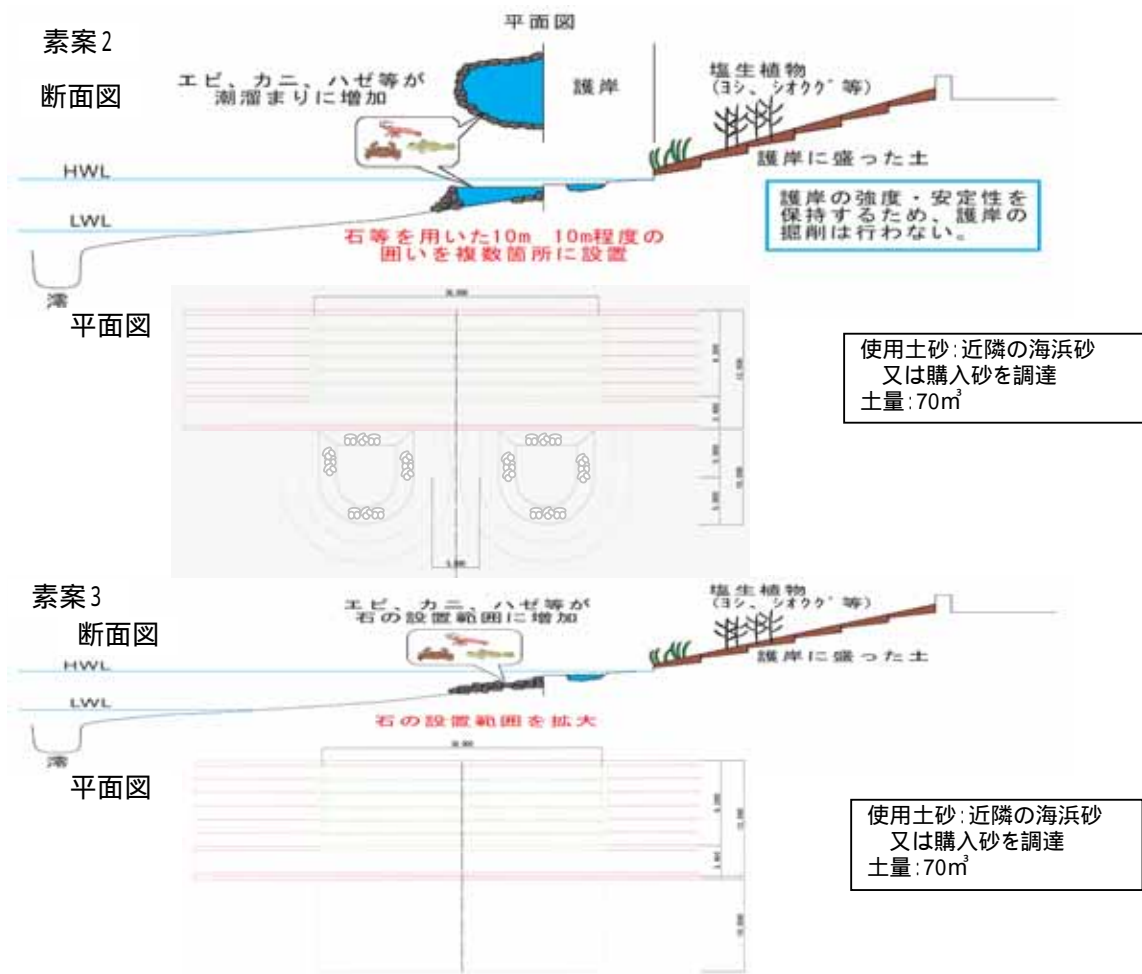


4 試験方法

浦安日の出周辺の階段護岸の一部に盛土による塩生植物の再生を図る試験を行うとともに、石の設置、砂つけにより潮だまり、干潟の拡大を図る。なお、アマモ場の造成試験については漁場再生検討委員会での試験状況を踏まえ計画する。

素案1





5 モニタリング計画

調査項目		頻度
底生生物	カニ類等大型底生生物	4季
	マクロベントス	4季
	付着生物	4季
魚類		4季
海岸(海浜)植物の生育状況	海岸(海浜)植物の本数、全長	4季
底質	粒度組成、酸化還元電子、強熱減量、含水比、COD、硫化物	4季
水質	水温、塩分、DO、T-N、T-P	4季
深浅測量		1回

6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) 潮だまり拡大でどんな生物が増えるのか。
- (2) 護岸に盛土をすることにより、塩生植物が生育できるか。
- (3) 砂をつけることにより、干潟が拡大するか。
- (4) 陸と海の連続性の確保に役立つのか。

7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 干潟の再生
- (2) 海と陸との連続性の回復
- (3) 海岸(海浜)植物の再生



猫実川における淡水導入試験計画素案

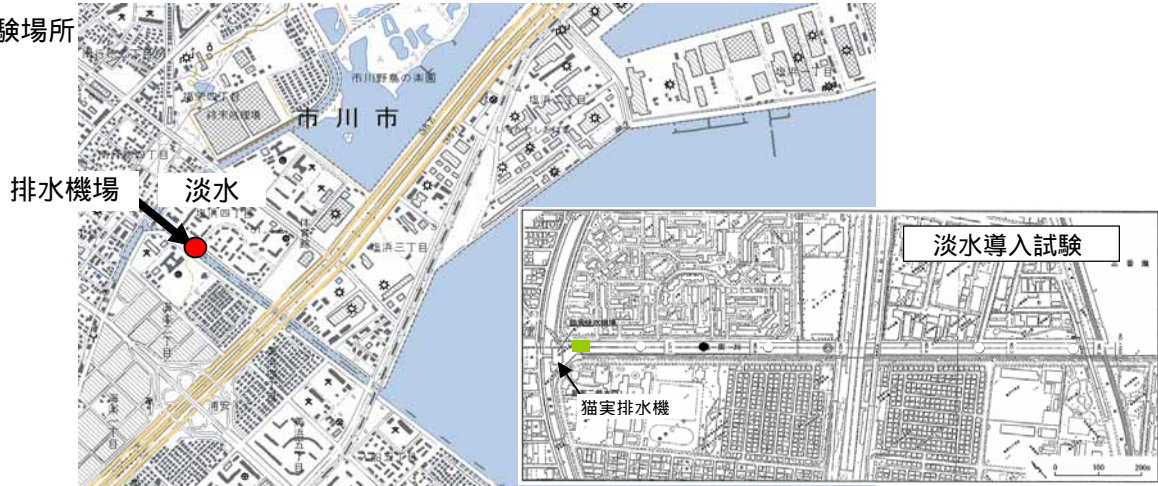
1 試験目的

猫実川の上流部において、旧江戸川からの水を活用して、汽水域形成の検討のための基礎資料を得る。

2 試験項目

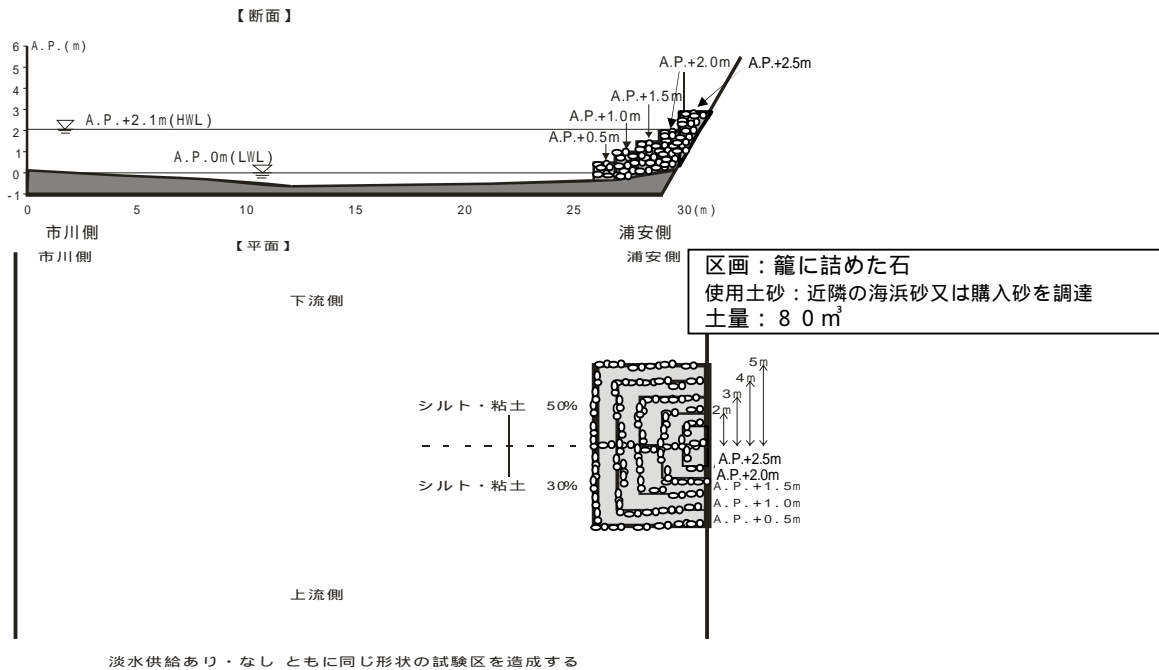
- (1) 猫実川排水機場からの導入量を増加させ、塩分濃度の変化を確認
- (2) 放流したカニ等やヨシの定着状況や他の生物の加入状況を確認

3 試験場所



4 試験方法

旧江戸川から猫実川への導水量を現在の揚水ポンプ2台を同時に可動させた場合の最大 $0.134\text{m}^3/\text{s}$ を最大とし、必要に応じて猫実排水機場のポンプを増設により淡水導水量を増やし、猫実川における生物試験のうち、上流部の試験区を利用して淡水導入により、汽水域のカニ等の放流、ヨシの移植により定着状況を見る。なお、本試験は猫実川における生物試験の結果を見た上で、他の淡水導入方法の検討も含め、将来的に計画するものとする。



5 モニタリング計画

調査項目		頻度
底生生物	カニ類等大型底生生物	4季
	マクロベントス	4季
	付着生物	4季
ヨシ生育状況	ヨシの本数、全長	4季
底質	粒度組成、酸化還元電子、強熱減量、含水比、COD、硫化物、塩分	4季
水質	水温、塩分、DO、T-N、T-P	4季

6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) 淡水導入により、塩分の低下があるのか。また、その範囲は。
- (2) 汽水域に住むカニ、貝類やヨシが定着できるか。また、どのような生物が加入するか。

7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 汽水域の回復
- (2) 小河川の再生

